

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1690200546
法人名	医療法人社団明寿会
事業所名	あっとほ～む米島
所在地	高岡市米島329-3
自己評価作成日	平成30年12月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が自分のペースで生活できるよう個別に支援することで、利用者が安心して生活している。 ・利用者の言動を否定せず受け止め、落ち着いて生活できるよう支援している。 ・職員各自がリスクや感染防止を意識し、業務に取り組んでいる。

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページ等で閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人 富山県介護福祉士会		
所在地	939-8084 富山県富山市西中野町1-1-18 オフィス西中野ビル1階		
訪問調査日	平成31年3月6日	評価結果市町村受理日	平成31年3月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は母体医療法人の方針を基に、開設当初からIT化(コンピューター技術を活用した事務の効率化)に取り組み、業務に関わる全ての記録をパソコンソフトに入力している。介護記録、諸会議や研修報告、伝達事項、事故やヒヤリハット等について、全職員が画面を通して認識している。話し合いにおける重要な決定事項や職員間での共有項目については、管理者がその経緯について文章化したものを回覧するなど、効率化を進めながらも、職員の心や気持ちに届くよう柔軟な対応をしている。今年度、皆で作った目標『寄りそう・知る・理解する』を念頭に置きながら利用者支援に努め、外出やおやつ作りなどを楽しみ、広報「まいほ～む便り」の個別発行や面会時のきめ細かい近況報告等で、家族の信頼を得ている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

1 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を基にグループホームの目標を職員で話し合い、普段からよく目に留まる場所に掲げ、職員が常に意識できるようにしている。日々の様子や記録がパソコンから確認でき、ミーティングや社内メールで職員全員が共有し実践に繋げている。	法人の理念『個別ケア・町の中の暮らし・ケアサービス』をふまえ、毎年度初めの職員会議で、事業所としての目標を作成。今年度は『寄りそう・知る・理解する』を日々のケアの中心に置き、随時振り返りながら実践に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の方から、地域行事や民謡会等の催しへの誘いがあり、参加させて頂いている。又、事業所の行事へも招待し地域交流を図っている。	町内の納涼祭、法話会、公民館祭り、草むしりなどに参加して地域との交流を図り、事業所の納涼祭や民謡ボランティア等来所の折には、近隣への声かけを行い一緒に楽しんでいる。散歩時には挨拶を交わす等日常的なつきあいがある。	併設する認知症デイサービスが閉鎖後、事業所内の行事や催し物の際に利用している空間を、例えば認知症カフェなどの開設等、社会資源として地域に開放していくことなどの取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で質問や意見が出た場合は、適宜利用者の立場に立った見解も伝え、認知症の理解に繋げている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に開催し自治会長、老人会会長、民生委員、地域包括支援センター職員、家族が参加している。事業所の活動内容や事故・ヒヤリ報告を行い、意見交換等を行っている。	地域代表、地域包括職員、家族代表の参加を得て隔月に開催し、活動内容や事故・ヒヤリハットについて報告。会議の中で得た情報は、ボランティアの来訪や、地域行事への参加等に繋げている。議事録は玄関に掲示しているが、開催案内と結果について、今後は全家族への報告を検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議の報告の他に、分からないことがあれば市町村に確認している。	地域包括職員へは、事業所の活動や、事故・ヒヤリハット報告等、運営推進会議への出席時に取り組みを積極的に伝えている。市の高齢介護課の職員とは、法令改定時等に相談したり事故報告の内容について話し合う等、協力関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の身体拘束をしない方針のもと、利用者の支援に取り組んでいる。委員会を開催し、その内容をカンファレンスで報告し学びを深め、拘束しない対応を検討し実践に活かしている。	『身体拘束廃止マニュアル』を基に、委員会を設置。身体拘束をしないケアについて、ミーティングで話し合い、また新人研修、中途採用研修時に学ぶ機会が設けられている。事業所としての委員会、研修会を開催しつつ、制度改定に伴い、指針、委員会、研修等について名称等の見直しと整備をしているところである。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修に参加し学ぶ機会を設けている。日頃のケアの中で、虐待が見過ごされることがないように防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会で学ぶ機会を設けている。今後外部研修に参加するなどして、学ぶ機会をもつよう努める。成年後見制度については、現在は制度を利用している利用者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族に、文章を見ながら口頭で説明や報告を行い、理解や納得して頂けるよう努めている。また、不明な点等あれば、その都度対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時は必ず連絡事項や日頃の本人の様子、受診結果等について伝達すると共に、家族の意見を聞き把握に努めている。また、ケアに対する意見をミーティングで話し合い、個々の利用者、家族の要望を職員間で共有し、運営に反映させている。	面会時の会話等で把握した家族の意見や要望について、担当者が法人ケアシステムの業務日誌に入力して共有、内容をケアに活かしている。また、年に一度家族アンケートを実施し職員の言葉づかいや環境等について意見を聞き、結果と対応については全員に返答している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員の意見や提案を日頃から聞き、必要時は皆でカンファレンスで話しあう等し、日々の運営に反映させている。職員、管理者、代表者は社内メールを活用することで、情報を共有しながら改善へと繋げている。	管理者として職員の要望や意見は日々聞くように努めるとともに、改善すべきことは皆で話し合い、カンファレンス記録で共有するなど反映に努めている。また自己評価を基にした人事考課制度の中で、年に一度管理者との個別面接の機会があり、意見の反映に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	不必要な時間外労働を避けれるよう工夫し、業務分担などを行っている。またキャリアパス要件に従い処遇改善を行っている。職場環境は、カンファレンス等で意見を出し合い、上司と相談し改善されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会への参加や外部研修への参加への勤務配慮、又研修費の補助を行っている。月に1回勉強会を開催し、知識を深める機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内ですが、月1回の主任会議、感染症委員会、リスク委員会、勉強会等の参加をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、本人や家族に話を聞き、生活歴や現状、希望や要望、不安に感じていること等に耳を傾け、安心して生活できるよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族や本人と面接し、要望や思いを確認している。又、生活していく中で気付いたことはこまめに連絡を取り、その都度ケアの方向性を確認・相談している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に本人や家族が困っていること、施設に対し望むことを踏まえた暫定プランを作成し、入居後アセスメントを行い、1ヶ月後に評価した後本プランを作成している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者個々のできる事、できない事、得意な事等を見極め、活動や役割を提案している。利用者一人ひとりが活動を通して喜びを感じれるように、できない時も責めずにフォローする等し、支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診や散髪等は基本的に家族に依頼している。また、本人の意向を伝え、外出や外泊、面会の機会が持てるよう連絡や説明を行い、協力を得ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設に友人が訪ねて来られたり、馴染みの美容院に行くなど外出・外泊を、家族と共に支援している。	友人や知人の面会、馴染みの美容院への外出、春秋の地元の祭りへの参加、盆の墓参りや正月の自宅外出等を支援し、また携帯電話で家族や友人との交流を楽しむ利用者もいる。事業所は多様な形で馴染みの人や場所との関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の関係性を把握し、座席を配置している。日々の共同作業やレクレーションの集団活動等でも、利用者同士が交流できる場面作りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も家族からの相談、要望があれば応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前より家族、本人より生活歴、趣味、特技、したい事等を聞き、利用者本人の全体像の把握に努めている。又、日常生活の会話から、希望や要望の把握に努めメール等で情報を共有している。	入居前にケアマネと管理者が本人や家族に聞き取り把握した、暮らし方の希望、日常生活動作、思いや意向などの情報は、ケアシステムの「利用者情報」に入力して職員間の共有を図り、日常のケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の本人家族とのオリエンテーション時に、情報収集を行い、メールやパソコン入力等で職員間で情報共有している。また、聴取した内容をケアに取り入れている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個々の一日の過ごし方を把握し、好みや力量に応じた活動提供に努めている。日頃から利用者の状態把握に気を配り、職員間で申し送ったり、日誌に挙げる等して現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題については職員同士意見を出し合っている。介護計画の取り組みについては家族にも伝え、要望があれば伺い、プラン作成時に反映させている。	毎月のカンファレンスで全員の状況を把握するとともに、計画は3か月に一度見直しを行い課題の検討をしている。家族の意見は近況を伝えながら随時聴きとり、現状に即した介護計画の作成に繋げている。計画はすべてケアシステムの「介護計画」に保存され、職員間で共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを日誌や社内メールに記録し、職員間で情報共有している。ケアプランの見直しやケアの実践に役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族から相談があった際に、施設で可能なサービスを最大限に活用し、対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加、近くのスーパーへの買物や近所の散歩等、楽しい時間を過ごせるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医の診察を受けている。異変があった場合は、その都度Nsに相談し、適切な医療が受けられるように支援している。	入居時に希望のかかりつけ医について確認し、本人や家族の要望に添っている。事業所協力医以外への受診時には「つながりノート」を準備し、本人の状態、バイタル等を記入した記録用紙を家族が医療機関に持参している。受診結果は業務日誌で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤Nsが不在な為、かかりつけ医のNsに報告し、相談する体制作りを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、法人相談員や管理者が面会に行き、病院関係者と情報交換し、相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の状態に関しては、かかりつけ医、家族と現状について話し合い、今後について相談し対応している。看取りも行う事を視野に入れ、勉強会で学んだり、不安な事はNsに聞いたり等している。	設立母体である法人の病院との緊密な連携をふまえ、これまでは重度化や終末期のケアを実施していない。今後は利用者の現状に即し、本人や家族の思いを受け止めながら、看取りケアを実施していく予定。今年度看取り介護の研修会を数回実施している。	利用者の現状や家族の思いに応えるよう、看取り介護指針の整備をはじめ、職員教育、医療との連携、家族との話し合い等を踏まえ、現状に即した体制づくりに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	リスク対策、急変時の対応等に関する事は、定期的に勉強会を行い学んでいる。又、法人内で実施している救命救急の研修参加を義務付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は年に昼夜想定で2回実施している。そのうち1回は消防署の立会いの訓練を実施。水害や地震災害の訓練は実施していない。	年2回、夜間・日中を想定した火災訓練を実施し、実施時には自治会長に知らせている。火災時の避難場所は事業所前の駐車場としており、散歩の折に実際に確認している。また、備蓄の準備がある。	運営推進会議等で災害時の対策について、情報交換を行い、事業所の訓練に参加を依頼したり、地震や水害時の対策についてともに検討しながら、実効性のある災害時の協力体制を築くよう期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人の職員心得に人格の尊重、プライバシー保護に関する項目もあり、指示的ではなく、お願いするような声かけを心がけ、利用者一人ひとりの思いや人格を否定しないように努めている。	今年度の事業所理念は、皆で考えた『寄りそう・知る・理解する』としている。利用者一人ひとりに寄り添い、その人のことを知り、理解者としてあるために、日常のケアの中で立ち止まり、言葉遣いや対応について話し合う等、誇りを損ねない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	活動の促し時には、本人が選択できるような声かけ(二者択一や〇〇しませんか等)を行い、本人が自己決定できるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自己決定できるような声かけを心がけ、可能な範囲で希望や要望に応じるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品や好みの洋服等、本人の希望があれば、家族に持参を協力して頂き支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりのできる能力に合わせて、盛り付けや片付け等を分担し行っている。その時々で、職員と一緒に行う事もある。	食材は専門の業者から一括して届き、職員が盛り付けて提供している。栄養士が作成した献立は、栄養価や彩りが考慮され、味付けもよく、利用者にとって『おいしい』ものとなっている。また計画を立てて、手作りおやつやファミレスへの外食なども楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士が作成した献立で食事を提供している。水分はコーヒーやお茶等を10時と15時に提供している。個々に応じた食事形態で提供し、安全に摂取できるように支援している。又、行事では利用者の食べたいものを作る等の支援も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけや見守りを行い、本人の能力に合わせて口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄量をパソコン入力し、排泄パターンの把握に努めている。排泄間隔が2～3時間空いている場合は、声かけし誘導や介助等を行っている。	ケアシステムの中の「排泄チェック表」に、個々の利用者の支援時に、そのつど時間、形状、介助者、パット使用量などを入力し、個々の排泄状態を把握している。記録は、本人の状況に即した支援方法を検討していく根拠としている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便の有無を確認して、便秘をチェックしている。水分や牛乳を補ったり、運動を実施したりしている。又、内服薬で便の調整も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日風呂を沸かしており、一人週2回を基本として入浴支援をしている。受診や外泊等の予定がある日と入浴日が重ならないように配慮している。	基本は週2回の入浴であるが、毎日、入浴の準備は整えている。無理強いせず、希望を受け入れ、日時の変更は柔軟に行っている。ケアシステムの項目には、一般(浴)、清拭、爪切り等の項があり、利用者の清潔保持の状況について共有している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターンを把握し、一人ひとりの生活習慣に応じて対応している。活動や休息の時間を確保し、生活リズムを整え、安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬一覧表をいつでも確認できるよう設置している。薬の変更があった場合は、社内メールにて周知している。個々の利用者の状態を観察し、変化があれば主治医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事や散歩、地域行事、カラオケ等、家事等、各自の好みの活動に参加し楽しみや喜びを感じれるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設周辺を散歩したいと希望があれば他者も誘い、職員と一緒に周囲の風景を楽しみながら散歩し気分転換を図っている。又、季節に応じた場所へのドライブや外食等を行っている。家族の協力が得られる場合は、お願いして外出したりもしている。	天気のよい日には事業所周辺を散歩し、近所の方と挨拶を交わしている。食材の買物には近隣のスーパーに出かけ、誕生日にはファミレスで食事をしたり、四季の花や行事に合わせたドライブを楽しんでいる。事業所広報「まいほ～む便り」では、外出時の様子などを個別の写真つきで家族に報告している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に所持していないが、管理ができる方で本人の希望がある方には所持して頂いている。欲しい物や必要な物は、家族に持参して頂いたり、立替金で購入したりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自ら希望があれば、電話の取次ぎを行っている。又、携帯電話を所持している方も居り、自由に連絡を取り合っている。手紙、ハガキ等希望があれば対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を飾ったり、季節に応じた壁装飾等を工夫し、心地よく生活できるよう工夫している。室温調整やテレビの音量、カーテンでの遮光等を調整し、不快に感じないように配慮している。	入口の戸を開けると、ダイニングテーブルが2台設置された共用空間が見渡せる。壁面には季節感のある利用者と職員の合同作品が掲示され、天井からは手づくりの飾り物が揺らいでいる。利用者各自のレク材や脳トレ素材は、リビングに置かれた引き出し式のクリアケースに整理され、毎日楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前にはソファを設置し、利用者同士が和めるよう工夫している。居室は個室の為、一人になりたい時はいつでも自由にそこで過ごす事ができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはなじみの品や写真を飾ったり、他にも希望で冷蔵庫やテレビの持ち込み等あり。居心地よく過ごせるよう工夫している。	鏡付の洗面台、ベッドが設置されたフローリングの居室に、利用者はテレビや冷蔵庫を設置したり、洗面台の棚には、化粧品や髪の手入れ用品を置き、室内には家族の写真等を飾っている。また、携帯電話を使って居室で家族とおしゃべりを楽しむなど、その人らしさを失うことなく暮らせるよう配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや風呂、居室の貼り紙を設置し、一人ひとりの「できること、分かること」や残存機能を把握し、本人が出来るだけ自立した生活を送れるよう環境作りを行っている。		

2 目標達成計画

事業所名 あっとほーむ米島

作成日：平成 31年 3月 21日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	ご家族様への運営推進会議の開催については、居室の並び順にお声かけさせて頂いていた。結果報告については、玄関の掲示板への掲示をもって報告させて頂いていた。	運営推進会議の開催案内と結果報告を、毎回全ご家族様に書面で郵送する。	①運営推進会議の開催案内と結果報告を、毎回全ご家族様に郵送させて頂く旨のお知らせを書面で行う。②2019年度の第1回目に当たる5月の運営推進会議開催時より、運営推進会議案内及び結果報告を書面で全ご家族様に郵送する。	2ヶ月
2	13	地震や水災害の訓練は実施していない。	地震や水災害の対策について、運営推進会議で地域の方と情報交換する。	③2019年度の第1回目に当たる5月の運営推進会議で、地域との協力体制が得られるように、地域の方と情報交換する。	2ヶ月
3	13	地震や水災害の訓練は実施していない。	地震や水災害時を想定し、訓練を行う。	④地震や水災害時を想定し避難方法を利用者に意識してもらえる様、レクリエーションの中に取り入れる。 ⑤地震や水災害時の避難計画やマニュアルを見直し、不備がある部分は作成する。 ⑥地震や水災害時を想定し、訓練を行う。	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。